

2020年1月28日
日本ガス協会

日本ガス協会 広瀬会長 会見発言要旨

1. 2020年の予定

年頭からアメリカとイランの関係緊迫化や、新型コロナウイルスの発生など、大変なスタートとなったが、1年間のイベント予定を見ると、まず明るい話題としては、東京オリンピック・パラリンピックである。また、海外では11月にアメリカ大統領選挙が予定されており、国際関係や世界経済に大きな影響を与える可能性があるため、注視していきたい。

業界に関わる国際的な予定では、例年同様、国際的な会議やイベントが秋以降に集中している。ガス協会も西太平洋ガス会議（GASEX）などに参加し、天然ガス・LNGの市場拡大・普及促進につながる情報発信や情報収集を行っていく。

国内の予定としては、今年が日本初の本格的な地域冷暖房（大阪 千里ニュータウン）スタートから50年という節目の年に当たることから、2月3日にその大阪で記念式典を開催する。当日は「地域熱供給の長期ビジョン」の発表も予定しており、是非取材にお越しいただきたい。

また、2020年におけるエネルギー業界の最大の出来事として、4月に電力会社の発送電分離がある。ガス業界では複数の公営ガスが民営化されるなど、他にも様々な予定があるが、今後この会見機会などを通じて、随時ご紹介やご報告をさせていただきたい。

2. 2020年の取り組み

業界を取り巻く環境であるが、頻発する自然災害への備えに対する要請の高まりや、低炭素・脱炭素の議論進展、デジタル化に代表される技術進

展、人口減少、自由化など、その影響は非常に大きく、かつ動きも速い。特に自由化については、電力が自由化 5 年目、ガスが 4 年目となるが、これまでは序章であり、今年から本格的に第一章がスタートし、さらに加速すると考えている。

そうした中、ガス協会としては、「新たな業務執行体制、会員資格体系のもとで、事業にまい進する初年度として、LNGの次なる半世紀も見据え、一層の安定供給・保安向上、天然ガスのさらなる普及拡大、ならびに地域貢献に資する地方ガス事業の持続的発展に向けた支援活動を推進する」という基本スタンスで臨んでゆく。

具体的な取り組みとしては、まずは「レジリエンスの強化」である。昨年も大きな水害が発生し、現在も様々な議論がなされているが、ガス業界においても大きな課題と捉えている。停電対応型コージェネやエネファーム等の普及促進に加え、事業者側のインフラ強化・整備も必要と考えている。

2 つめは「天然ガスの普及拡大」である。お客さまニーズや生活様式の変化・多様化に適するガス機器・システムの一層の普及に努めていく。また、メタネーションや水素などの技術開発も推進していく。

3 つめが、「地方ガス事業者支援の強化」である。事業者には地域活性化の取り組みの重要性を引き続き提起し、具体的な行動につながるような事例共有や人材育成支援を行っていく。

4 つめが、「対外発信力の強化」であり、本日のような会見に加え、審議会や国際会議でも、ガス業界がどのように社会に貢献していくのかを理解いただくべく、今まで以上に情報発信を強化していきたい。

最後が、「組織基盤の整備・強化」である。昨年定款の改正を行ったが、これに沿った運営を定着させ、ガス協会を筋肉質でパフォーマンスの高い組織にしていきたい。

これらに取り組むことで、「わが国の経済と国民生活の向上に寄与する」

という、ガス協会の目的実現を目指していく。

3. (参考) 第13回ウイズガス全国親子クッキングコンテスト 全国大会

全国から5万8千組以上の応募をいただき、地区大会を勝ち抜いたチームによる全国大会が1月26日(日)に行われた。当日は大変な盛り上がりとなったが、激戦の結果、東海地区代表の野村さん親子がグランプリを受賞された。このようなイベントを通して、家族の絆や食の大切さへの関心を高めていただければ幸いである。今後も継続していきたい。

以上